

## 1-1 英語を話す時間・書く機会

高1生が、授業で英語を話している時間は、5分以上が25.6%。  
授業や宿題で英語を書く機会は、「週に1・2回」以上が29.1%。

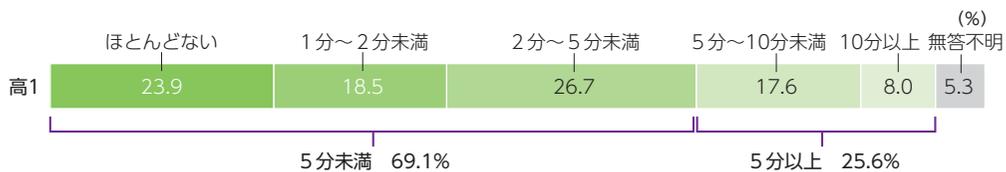
高1生が、音読やリピート練習以外で、1回の授業で英語を話している時間は、5分以上が25.6%。5分未満が69.1%。そのうち「ほとんどない」は23.9%。

また、授業や宿題で自分の意見や考え、感想などを英語で書く機会は、「週に1・2回」以上（「週に1・2回」+「週に3・4回」+「週に5・6回以上」）が29.1%、「月に1～3回」が31.2%、「ほとんどない」が34.1%と、それぞれ約3割。



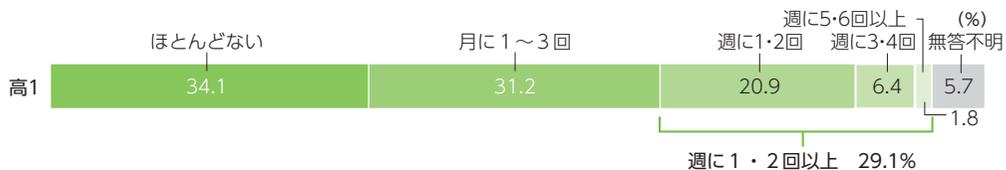
1回の英語の授業で、あなたが英語を実際に話している時間はどれくらいですか（音読・リピート練習は含めません。授業によって違うときはおよその平均を教えてください）。

図1-1 授業で英語を話す時間



学校の授業や宿題で、あなたが自分の意見や考え、感想などを英語で書く機会はどれくらいありますか。

図1-2 授業や宿題で英語を書く機会



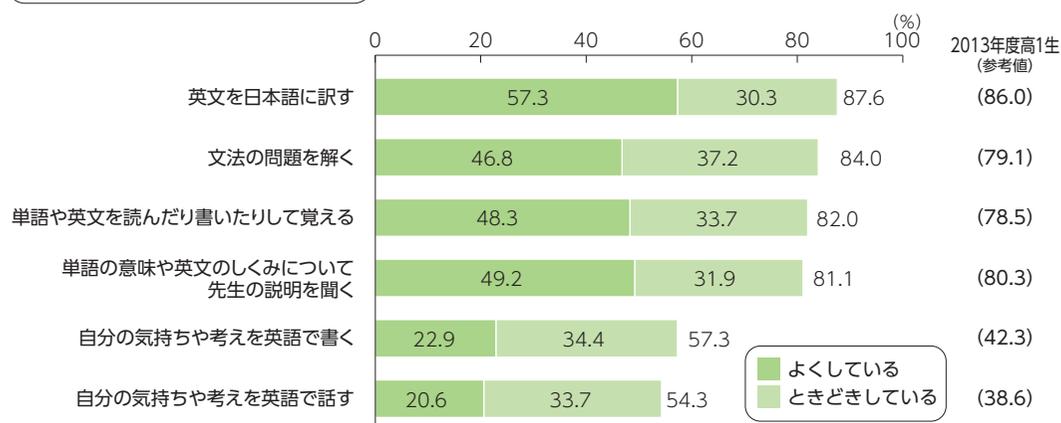
# 1-2 英語の授業でしていること

授業で「訳す・問題を解く・覚える・説明を聞く」をしているのは8割台。一方、「自分の気持ちや考えを書く・話す」は5割台。

英語の授業で、高1生は「英文を日本語に訳す」「文法の問題を解く」「単語や英文を読んだり書いたりして覚える」「単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く」をそれぞれ8割台が「している(よく+ときどき、以下同)」。一方、「自分の気持ちや考えを英語で書く」「自分の気持ちや考えを英語で話す」を「している」はそれぞれ5割台。

**Q** 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

図1-3 授業でしていること



\* 外側にある数値は「よくしている」+「ときどきしている」の%。

\* 「中高生の英語学習に関する実態調査2014」(2014年3月実施)

\* p.2に調査説明あり。

表A 【授業でしていること】 (授業で英語を話す時間別)

「よくしている」+「ときどきしている」の%

	全体	1回の英語の授業で英語を実際に話している時間				
		ほとんどない	1分~2分未満	2分~5分未満	5分~10分未満	10分以上
	N=971	232	180	259	171	78
英文を日本語に訳す	87.6	84.1	87.8	89.2	88.9	84.6
文法の問題を解く	84.0	<u>76.7</u>	< 85.0	87.3	86.0	88.5
単語や英文を読んだり書いたりして覚える	82.0	<u>72.0</u>	<< <b>87.2</b>	<b>87.3</b>	84.2	82.1
単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く	81.1	<u>72.4</u>	< 78.9	< <b>88.0</b>	85.4	83.3
自分の気持ちや考えを英語で書く	57.3	<u>36.2</u>	<< 54.4	<< <b>64.5</b>	68.4	<< <b>80.8</b>
自分の気持ちや考えを英語で話す	54.3	<u>30.2</u>	<< <b>44.4</b>	<< <b>64.1</b>	< 71.9	< <b>78.2</b>

\* 太字は、全体平均値よりも5ポイント以上、    は10ポイント以上高いもの。

\*     は、全体平均値よりも5ポイント以上、    は10ポイント以上低いもの。

\* <>は、差が5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上のもの。

「授業でしていること」を「授業で英語を話す時間別」にみた。英語を話す時間が長いほど、「自分の気持ちや考えを英語で書く・話す」を「している(よく+ときどき)」比率が高い傾向がある。「訳す・問題を解く・覚える・説明を聞く」といった活動とあわせて、英語を話す時間が長い生徒ほど、授業でいろいろなことをしていることがみてとれる。

# 1-3 英語の授業での活動

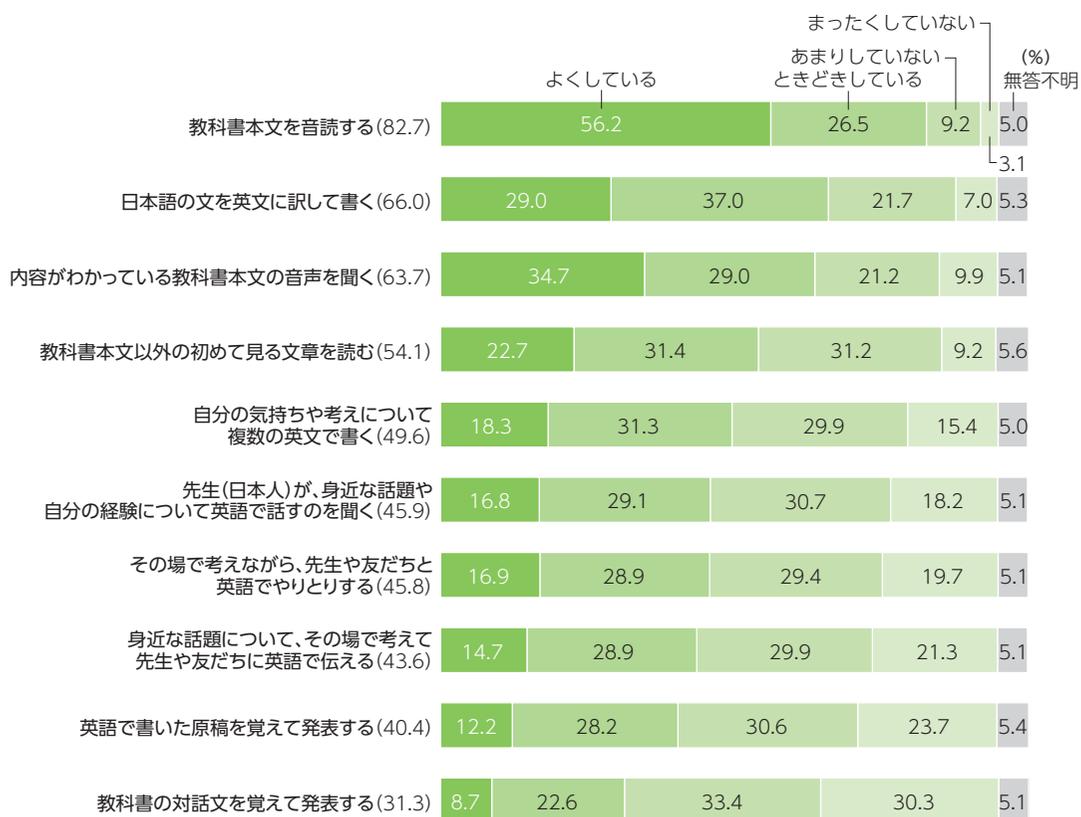
## 「教科書本文を音読する」は高1生の8割強が行っている。

英語の授業での活動についてたずねたところ、「教科書本文を音読する」が82.7%（「よくしている」+「ときどきしている」、以下同）ともっとも高く、「よくしている」比率も56.2%と他の項目に比べて高い。次いで、「日本語の文を英文に訳して書く」（66.0%）、「内容がわかっている教科書本文の音声聞く」（63.7%）が続く。



学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

図1-4 授業での活動



\* ( )内の数値は「よくしている」+「ときどきしている」の%。

# 1-4 先生の英語使用割合と働きかけ

## 高1生の英語の授業で、先生の6割強は半分以上英語を使って授業を進めている。

英語の授業での先生の英語使用割合について高1生にたずねたところ、先生の6割強は半分以上(「50%くらい」+「70%くらい」+「ほとんど英語で授業している」)英語を使って授業を進めているという回答だった。また、授業での先生について聞いたところ、「英語で言ったことの文法や単語の誤りについて正しい英語で言い直してくれる」「英語で話していることを一生懸命聞いてくれる」について、8割以上が「とてもあてはまる(とても+まあ)」と回答している。

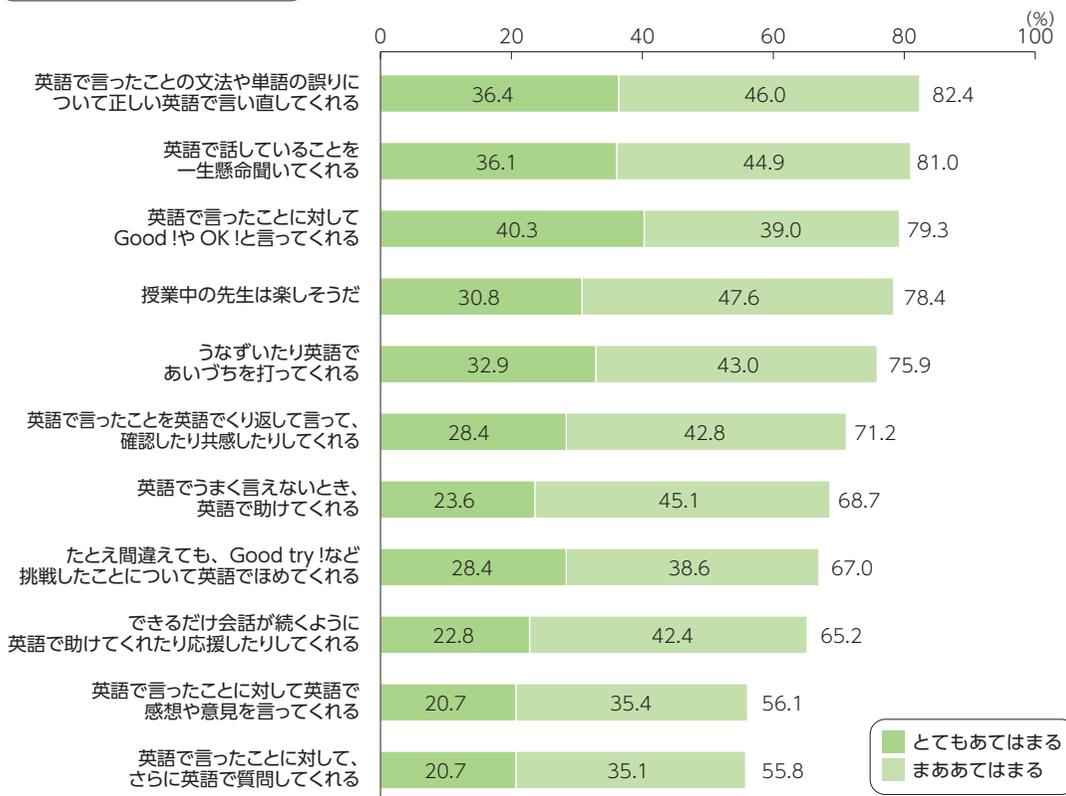
**Q** 英語の授業で、日本人の先生はどれくらい英語を使って授業を進めていますか。

図1-5 先生の英語使用割合



**Q** 授業で英語の先生(日本人の先生)について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図1-6 先生の働きかけ



\* 外側にある数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

# 1-5 先生の働きかけと生徒が英語を話す時間

## 授業で生徒が英語を話す時間が長いほど、先生による働きかけの種類が多い。

英語の授業での、先生から生徒への働きかけと、生徒が授業で英語を話す時間との関連をみた。授業で生徒が英語を話す時間が長いほど、先生が生徒に行う働きかけの種類が多く、全体値よりも比率が高い項目が多い。また、英語を話す時間が「ほとんどない」場合を除くと、「英語で言ったことの文法や単語の誤りについて正しい英語で言い直してくれる」「英語で話していることを一生懸命聞いてくれる」「英語で言ったことに対して Good！や OK！と言ってくれる」「うなずいたり英語であいづちを打ってくれる」は、授業で生徒が英語を話す時間の長さによる差が少ない。

表1-1 先生の働きかけ（授業で英語を話す時間別）

「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%

	全体 N=971	1回の英語の授業で英語を実際に話している時間					
		ほとんど ない	1分～ 2分未満	2分～ 5分未満	5分～ 10分未満	10分以上	
英語で言ったことの文法や単語の誤りについて正しい英語で言い直してくれる	82.4	<u>74.6</u>	<	82.8	86.9	84.2	87.2
英語で話していることを一生懸命聞いてくれる	81.0	<u>66.4</u>	≪	84.4	84.9	<b>88.3</b>	<b>89.7</b>
英語で言ったことに対して Good！や OK！と言ってくれる	79.3	<u>66.8</u>	≪	83.3	83.4	<b>85.4</b>	<b>87.2</b>
授業中の先生は楽しそう	78.4	<u>68.5</u>	<	78.3	<	<b>84.2</b>	81.9 < <b>88.5</b>
うなずいたり英語であいづちを打ってくれる	75.9	<u>58.6</u>	≪	77.8		<b>81.5</b>	<b>85.4</b>
英語で言ったことを英語でくり返して言って、確認したり共感したりしてくれる	71.2	<u>55.2</u>	≪	71.7	<	<b>77.2</b>	<b>79.5</b>
英語でうまく言えないとき、英語で助けてくれる	68.7	<u>53.4</u>	≪	65.0	≪	<b>76.1</b>	<b>77.8</b>
たとえ間違えても、Good try！など挑戦したことについて英語でほめてくれる	67.0	<u>49.1</u>	≪	68.3		<b>72.2</b>	<b>74.3</b>
できるだけ会話が続くように英語で助けてくれたり応援したりしてくれる	65.2	<u>49.1</u>	≪	61.1	<	<b>71.0</b>	75.4 < <b>80.8</b>
英語で言ったことに対して英語で感想や意見を言ってくれる	56.1	<u>33.2</u>	≪	<u>49.4</u>	≪	<b>63.3</b>	< <b>71.9</b> ≪ <b>84.6</b>
英語で言ったことに対して、さらに英語で質問してくれる	55.8	<u>35.3</u>	≪	51.1	≪	<b>63.3</b>	< <b>70.8</b> < <b>74.4</b>

\* 太字は、全体平均値よりも5ポイント以上、**■**は10ポイント以上高いもの。

\*    は、全体平均値よりも5ポイント以上、   は10ポイント以上低いもの。

\* <>は、差が5ポイント以上、≪≫は10ポイント以上のもの。

# 1-6 英語の得意・苦手と苦手と感じるようになった時期

英語が「得意(とても+やや)」と回答した高1生は4割強。苦手と感じるようになった時期は、「中1の前半」と「高1の前半」。

英語が「得意(とても+やや)」と回答した高1生は44.0%、「苦手(やや+とても、以下同)」と回答した高1生は55.4%。

「苦手」と感じるようになった時期は、「中1の前半」が18.2%と最も高く、次いで、「高1の前半」が17.3%と続く。

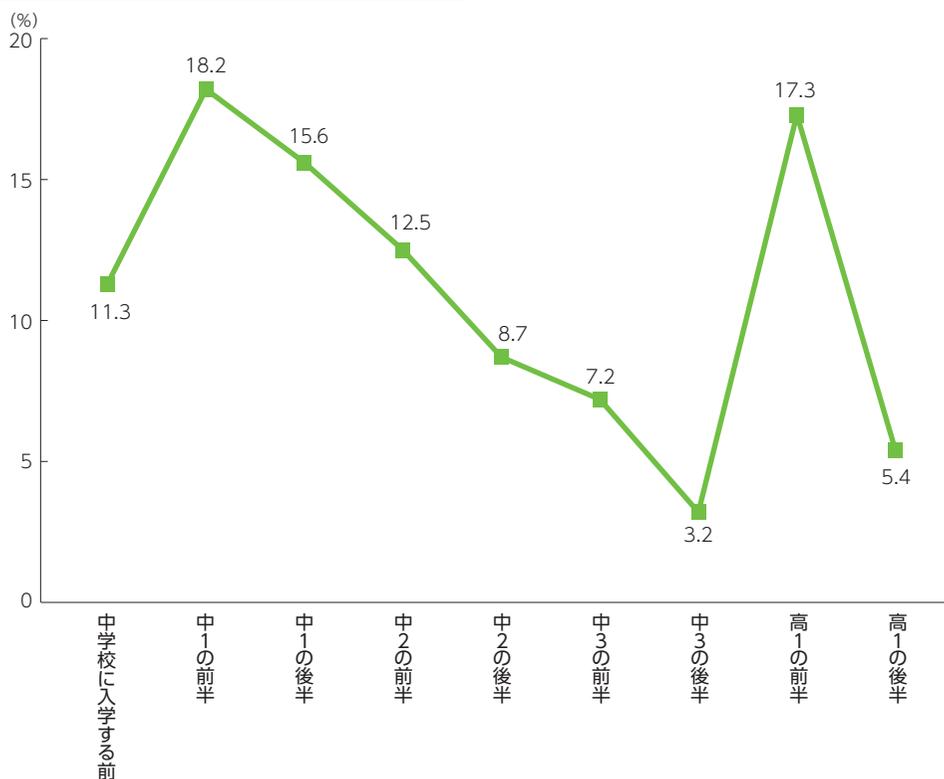
Q 学校の英語の授業についてお聞きます。あなたは、英語が得意ですか、苦手ですか。

図1-7 英語の得意・苦手



Q あなたが、英語を苦手と感じるようになったのはいつ頃からですか。

図1-8 英語を苦手と感じるようになった時期



\* 英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した538名の回答。

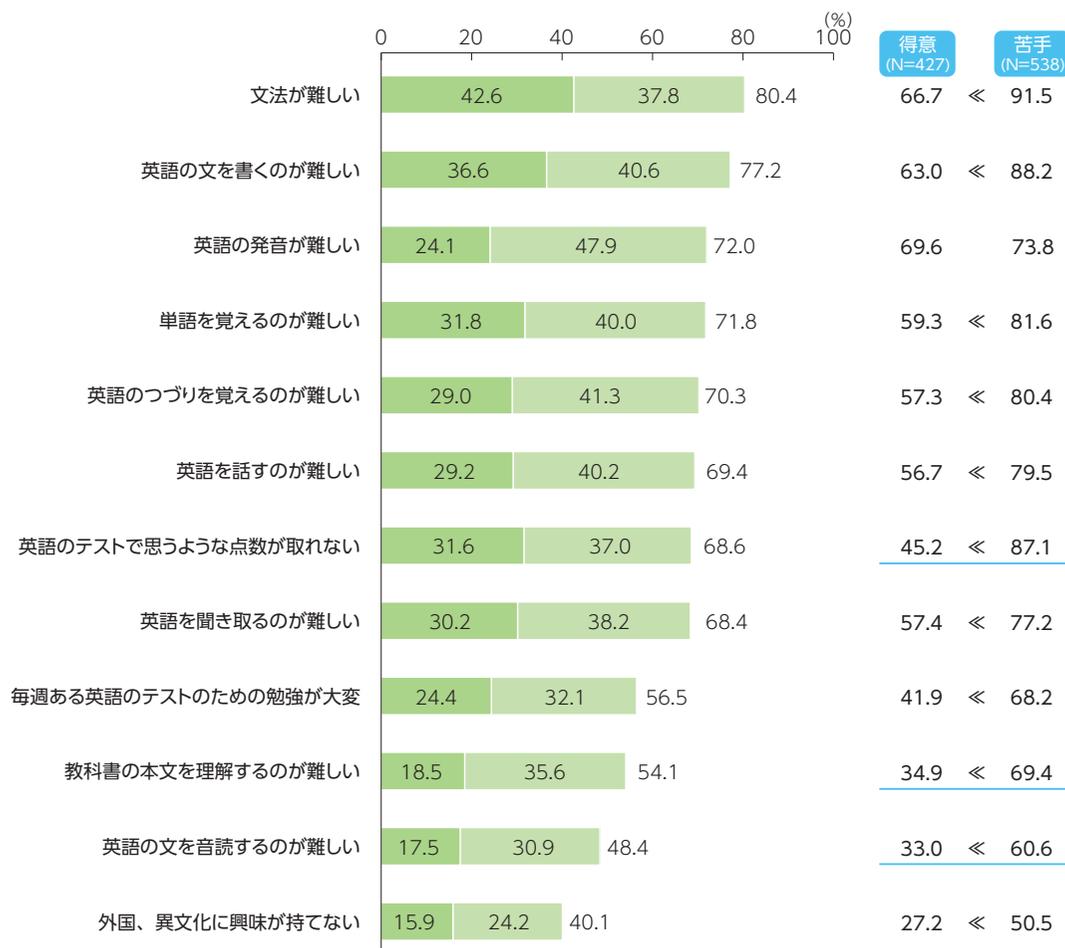
## 英語の学習において「文法が難しい」と感じている高1生が8割。

英語の学習において、「文法が難しい」「英語の文を書くのが難しい」「英語の発音が難しい」「単語を覚えるのが難しい」「英語のつづりを覚えるのが難しい」と、7～8割の高1生が感じている。

英語の「得意(とても+やや)」「苦手(やや+とても)」別にみると、ほとんどの項目で大きな差があり、特に「英語のテストで思うような点数が取れない」「教科書の本文を理解するのが難しい」「英語の文を音読するのが難しい」などで差が大きかった。

**Q** 学校の英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図1-9 つまずき



■ とてもあてはまる  
■ まああてはまる

\* 外側にある数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

\* 英語の「得意・苦手」について「得意(とても+やや)」と回答した427名と、「苦手(やや+とても)」と回答した538名の回答。

\* <<>は差が10ポイント以上のもの。

\* 下線は、「得意」「苦手」で差が大きい上位3項目。

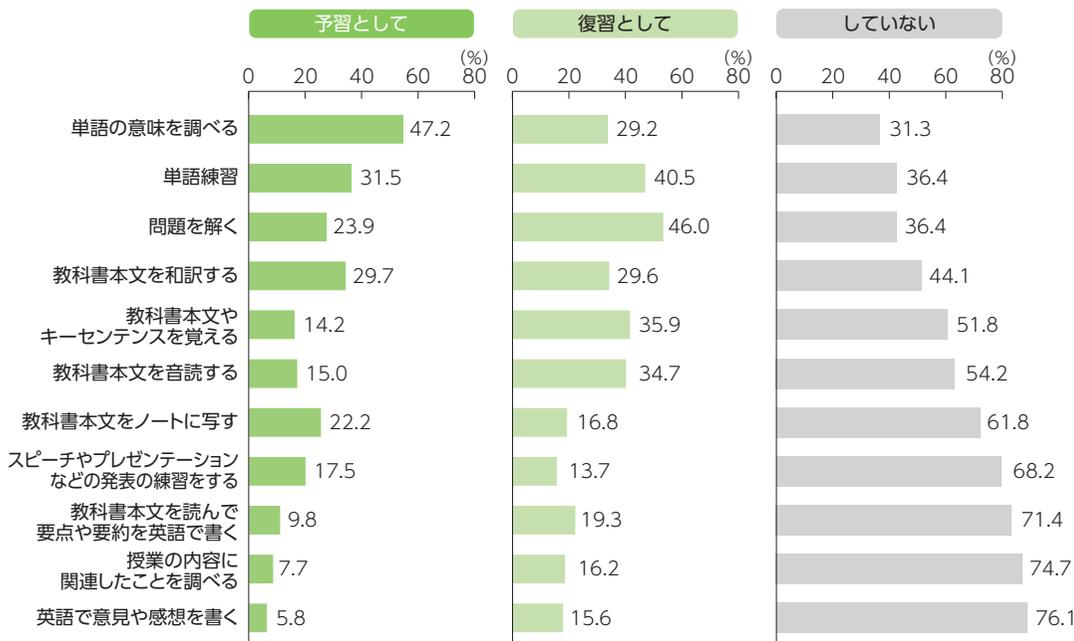
予習では「単語の意味を調べる」、復習では「問題を解く」がもっとも多い。

授業の予習・復習についてみると、予習では「単語の意味を調べる」「単語練習」「教科書本文を和訳する」、復習では「問題を解く」「単語練習」「教科書本文やキーセンテンスを覚える」がよく行われている。



あなたはふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか。それぞれについてあてはまるものをすべて選んで、空らん(O)を記入してください。予習でも復習でもしている場合は、両方にOをつけてください。

図1-10 授業の予習・復習



\*「ふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか」という問いで、「予習として」「復習として」「していない」のうちあてはまるものすべてに回答してもらったもの。

\*複数回答。 \*「無答不明」は省略。

### 予習・復習TOP 3

#### 【予習】

- 第1位 単語の意味を調べる (47.2%)
- 第2位 単語練習 (31.5%)
- 第3位 教科書本文を和訳する (29.7%)

#### 【復習】

- 第1位 問題を解く (46.0%)
- 第2位 単語練習 (40.5%)
- 第3位 教科書本文やキーセンテンスを覚える (35.9%)

### 2013年度高1生 (参考値)

\*「中高生の英語学習に関する実態調査2014」(2014年3月実施)  
\* p.2に調査説明あり。

#### 【予習】

- 第1位 単語の意味を調べる (61.9%)
- 第2位 教科書本文を和訳する (43.1%)
- 第3位 教科書本文をノートに写す (34.7%)

#### 【復習】

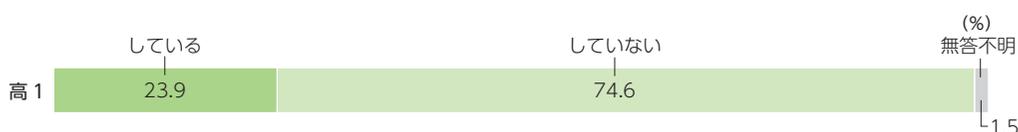
- 第1位 問題を解く (51.4%)
- 第2位 単語練習 (47.9%)
- 第3位 教科書本文やキーセンテンスを覚える (40.6%)

## 学校の授業以外で、英語や英会話の勉強をしている高1生は2割強。

学校の授業以外で、英語や英会話の勉強をしている高1生は23.9%だった。そのうち「学習塾」が53.9%、「書店で売られている教材」が16.4%、「英会話教室」が15.5%、「塾などの映像授業」が11.2%と、上位にあがった。

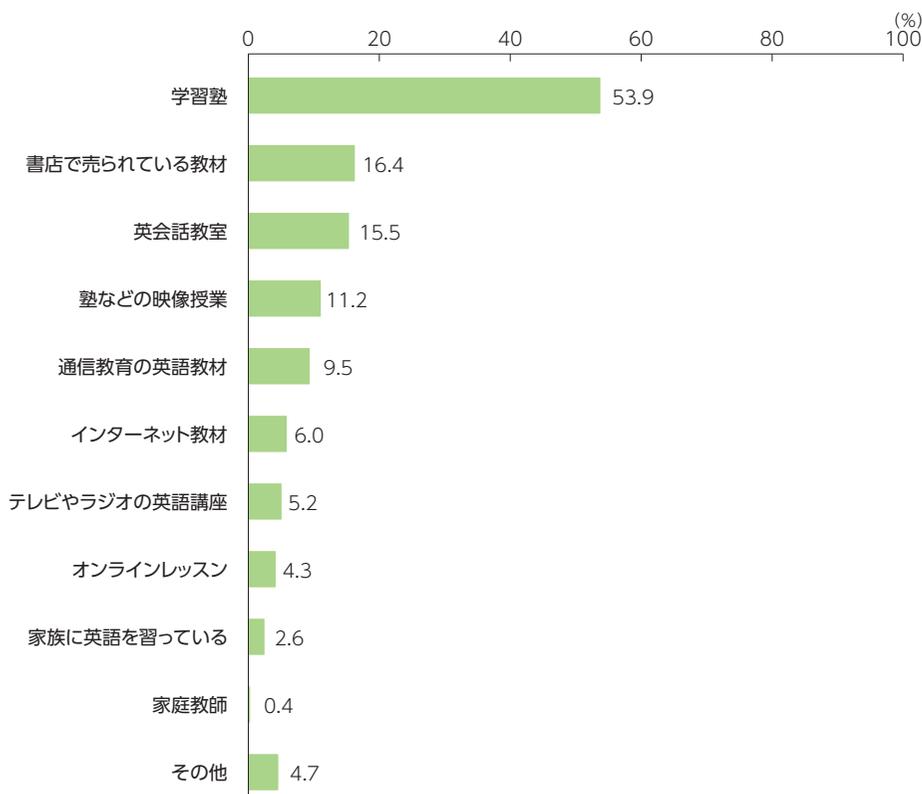
**Q** あなたは現在、学校の授業以外で、英語や英会話の勉強をしていますか。

図1-11 校外学習の有無



**Q** 「している」に○をつけた人にお聞きます。どのような方法で英語や英会話の勉強をしていましたか。

図1-12 校外学習の種類



\* 校外学習を「している」と回答した232名のみ回答。

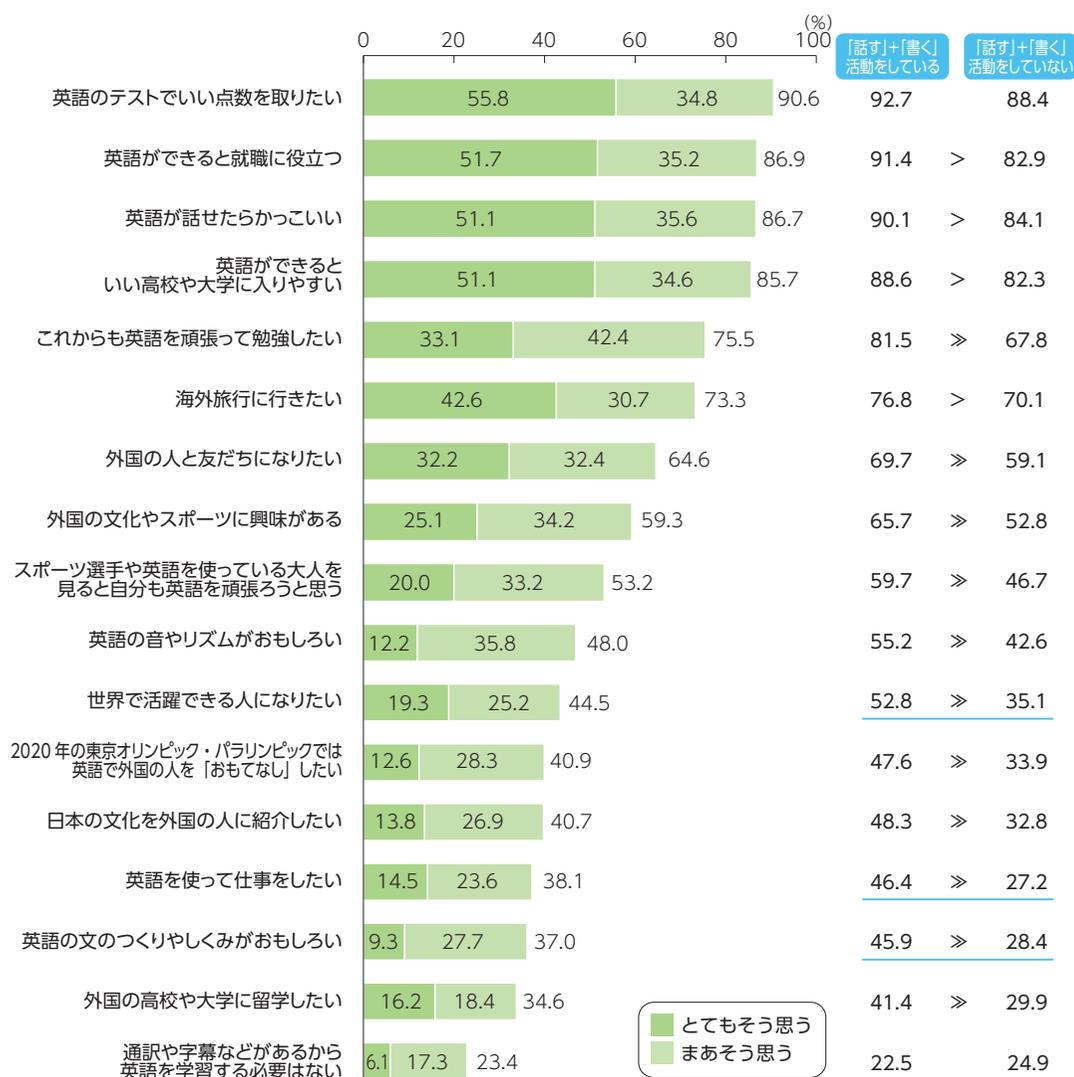
\* 複数回答。 \* 「無答不明」は省略。

「英語のテストでいい点数を取りたい」「英語が話せたらカッコいい」とともに、就職・入試などに英語は役立ちそうだという意識が高1生では強い。

「英語のテストでいい点数を取りたい」「英語ができると就職に役立つ」「英語が話せたらカッコいい」「英語ができるといい高校や大学に入りやすい」について高1生の8~9割が、「そう思う(とても+まあ)」と回答している。授業での「『話す』+『書く』活動」の有無で差が大きかったのは、「英語を使って仕事をしたい」「世界で活躍できる人になりたい」「英語の文のつくりやしきみがおもしろい」だった。

**Q** あなたは、以下のことについてどう思いますか。

図1-13 英語に関する意識



\* 外側にある数値は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

\* <>は差が5ポイント以上のもの、<<>>は差が10ポイント以上のもの。

\* 「話す」+「書く」活動をしている」「話す」+「書く」活動をしていないの詳細についてはp.14図Aの注釈を参照。

\* 下線は、「話す」+「書く」活動をしている」「話す」+「書く」活動をしていないで差が大きい上位3項目。

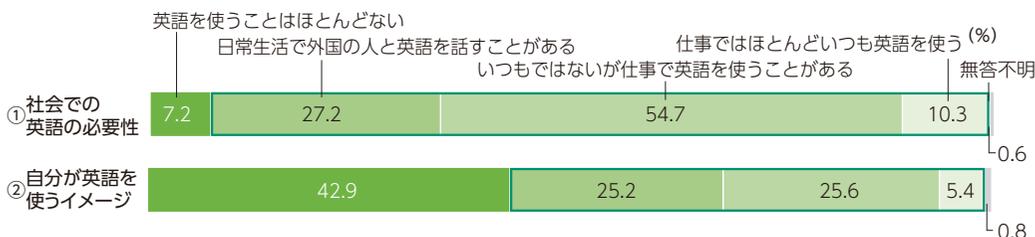
## 高1生は英語の必要性を感じているものの、将来、自分自身が使うイメージは低い。

約9割が、大人になったとき、社会での英語の必要性を感じている一方で、自分自身の英語使用をたずねると、約4割が「英語を使うことはほとんどない」と回答している。



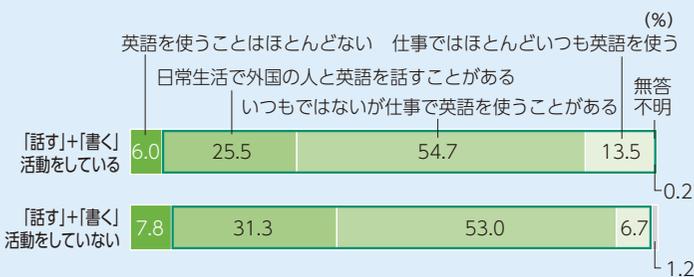
あなたが大人になったとき、①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。また、②あなた自身はどれくらい英語を使っていると思いますか。

図1-14 社会での英語の必要性と自分が英語を使うイメージ

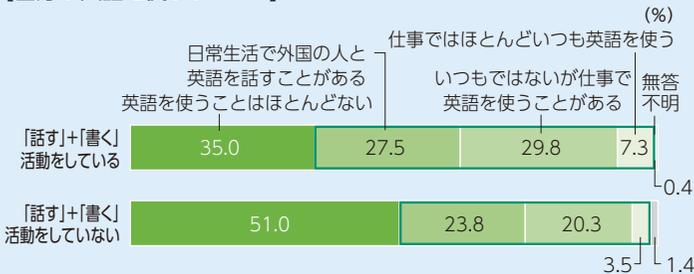


図A【社会での英語の必要性と自分が英語を使うイメージ】（『話す』+『書く』活動の有無別）

### 【社会での英語の必要性】



### 【自分が英語を使うイメージ】



\*「学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか」という問いに対して、「自分の気持ちや考えを英語で話す」「自分の気持ちや考えを英語で書く」について、どちらも「している(よく+ときどき)」と回答した群を「『話す』+『書く』活動をしている」群(466名)、どちらも「していない(あまり+まったく)」と回答した群を「『話す』+『書く』活動をしていない」群(345名)としている。「話す」活動のみ、「書く」活動のみを「している(よく+ときどき)」と回答した群は省略した。

【社会での英語の必要性】と【自分が英語を使うイメージ】について、学校の授業での『話す』+『書く』活動の有無別にみた。

【社会での英語の必要性】に対する意識には、授業での『話す』+『書く』活動の有無で大きな差はみられなかったが、将来、【自分が英語を使うイメージ】については、違いがみられた。学校の授業で『話す』+『書く』活動をしていないの場合は、半数以上が、将来、自分が「英語を使うことはほとんどない」と回答しているが、『話す』+『書く』活動をしている場合は、「英語を使うことはほとんどない」という回答は、3割強にとどまり、6割強が、将来、何らかの形で英語を使うと回答している。